

ロボット競技世界大会へ 東邦高生ら資金集めから

東邦高校や渋谷教育学園幕張高校などの中高生らで構成されたチーム「SAKURA Tempsta」が、4月26日から米国デトロイトで開催される世界規模のロボット競技会「FIRST Robotics Competition」に出場する。FRCは中高生を対象に、リーダーシップやコミュニケーション能力を育てることを目的としている。



宮本市長の激励を受ける世界大会出場の中高生たち

ゲームでロボットの性能を競うだけでなく、プロジェクトとして取組んだ過程も評価され、地区大会参加費6000ドル(約63万円)を集めるのも課題となる。

今回の挑戦は米国留学中に参加体験した東邦高校の中嶋花音さんが、帰国後に同じようなチームを作りたいとリーダーとなった。英語のルールブックは分厚く、プログラミング、設計・製作など初心者でゼロからの出発だったが、3月に行われたハワイでの地区大会では、3賞を受賞し、世界大会での出場権を得た。

メンバーは現在15名。荻田倫那さんと曾根原佑飛さんはともに市内在住で東邦高校に通う。荻田さんは「学校では学べないいい機会」と張り切っている。

大会を前にメンバーと指南役で千葉工業大学未来ロボ技術研究センターの富山健・前教授が習志野市役所を訪れて大会出場を報告。宮本市長は「素晴らしい話。世界一になってほしい」と激励した。

本戦の出場費は5000

金井宇宙飛行士と交信 母校の後輩ら応援



小旗を振って金井宇宙飛行士を応援する会場の人たち

国際宇宙ステーション(ISS)に滞在中的金井宣茂宇宙飛行士とのリアルタイム交信イベントが4月6日、東邦中学・高校で開かれた。

金井飛行士は市川市の稲荷木小学校、東邦中学校で学び、防衛医科大学校に進んだ。平成21年に夢であったJAXA宇宙飛行士選考試験に合格し、昨年12月に宇宙に向けて飛び立った。日本の実験棟「きぼう」で最新医療につながる実験などを行っている。

伊藤音次郎氏の生涯紹介 7公民館地区学習圏会議が合同 鷺沼海岸を雄飛し100年



エピソードを語る左から井上和子さん、西村美和さん、長谷川隆先生

習志野市7公民館地区学習圏会議合同企画「日本民間航空の開拓者」伊藤音次郎の生涯と写真展」が2月24日、習志野市民会館で開かれた。

第1部では、袖ヶ浦小学校の元校長で伊藤音次郎氏について研究する長谷川隆先生が、100年前に悠々と鷺沼海岸を飛んだ伊藤音次郎氏の生涯について講演した。

伊藤音次郎氏は明治24年、大阪に生まれ、黎明期の民間航空界にあつて「マール飛行家」として活躍した。奈良原三三氏に操縦や機体製作を学び、「伊藤飛行機研究所」を設立して独自に、稲毛・東京間の帝都訪問飛行に成功。大型台風と高潮で研究所が壊滅した後の大正7年、津田沼町の鷺沼海岸に飛行場を建設した。終戦を迎え航空界を引退し、研究所の仲間とともに払い下げを受けた成田市

の竹林に入植。農場は新東国国際空港滑走路予定地となり、農場を譲渡する。その後、伊藤飛行機研究所の滑走路だった埋立地に誕生した袖ヶ浦5丁目で晩年を過ごし、「民間航空発祥之地記念碑」の建立を最後の一大仕事として、昭和46年に

80歳の生涯を閉じた。長谷川先生からは設計者、製造者、冒険飛行を敢行した操縦士、人材育成の指導者、飛行機とグライダーの製造販売の経営者、日本の先駆けとなるピラ撒きなど宣伝や航空写真の販売を手がけたベンチャー企業の経営者の姿が語られた。

第2部は「家族と研究者からみた音次郎」として、伊藤音次郎氏の末子の井上和子さん、井上さんの娘で孫の西村美和さん、長谷川先生によって、家族の知るエピソード、研究から見える人物像が語られた。

井上さんは「父は何より義理固い人だった」と奈良原氏が苦労していた時には支えていた様子を話し、西村さんは「伯母からも他人から頼まれると断れなかったと聞いている」と紹介した。長谷川先生は冒険飛行の裏には慎重に下調べするといった、大胆かつ慎重な人物だったと述べた。

袖ヶ浦ボーイズの「創立50周年を祝う会」が2月11日、茜浜ホールで開かれた。少年野球チームの袖ヶ浦ボーイズは昭和43年に創部され、後に女子部も設けられた。市内大会、県大会でたびたび優勝し、平成7年には全国大会準優勝を成し

遂げ、プロ野球の平沼定晴選手を輩出した。「袖ボー」と親しまれるチームの半世紀が祝われた会場には台湾遠征時の横断幕が飾られ、OB、OG、歴代の指導者、少年野球関係者らが出席した。西嶋隆代表は「楽しかったこと、悔しかったこと、思い出に残っていることを歓談下さい」と挨拶。ピーク時には部員200名、監督・コーチ数十名という陣容を誇った。

た黄金期の様子が紹介され、懐かしい顔が集まった会場では、旧交が温められた。

チームを越えて仲間を応援！

藤崎よいとこ音頭披露 地域福祉フォーラムで



「藤崎よいとこ音頭」を披露する習志野市社会福祉協議会藤崎支部のメンバー

「藤崎よいとこ音頭」が平成29年度地域福祉フォーラムの千葉ブロック研修会で発表された。

地域福祉フォーラムは、地域福祉を推進するため、地域の課題について様々な団

体や住民が話し合いや協働の場を設け、連携して「互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会」を目指すもの。地区(小地域)では、地区の社会福祉協議会を核に、住民のニーズを明確化し、活動計画を策定。助成金などを活用しながら防犯や見守りなどが各地で進められ、市内ではあいさつ運動、防災対策、交流会などが実施されている。

藤崎よいとこ音頭は習志野市社会福祉協議会藤崎支部が発案し、この地域福祉フォーラムの助成金を受けて生まれた。歌詞には堀込貝塚、森林公園、正福寺な

どが発表された。藤崎支部からは支部長の野田順子さん、石井紀子さんが、音頭は住民同士の交流、健康づくり、生きがいづくりにつながる企画だつ

たことを説明。制作までの過程と協力した人、中学生も参加して盛り上がった講習会やお披露目の様子を話した。支部から参加した全員が藤の花も鮮やかなそろいの法被姿で、「藤崎音頭で夢花咲かそう」と元気に踊りを披露した。

最後に「従来の地域の仲間に加えて、新たな仲間とともに地元の魅力を再発見することができました。よいとこ音頭で縁をつなぎ、課題解決を図り、それぞれの想いの『夢花咲かそう』と思えます」と発表はまとめられた。

地域で親睦・仲間作り NBSスポーツまつり



ペタンクを楽しむ参加者

「NBSスポーツまつり」が3月17日、秋津総合運動公園多目的広場で開かれた。

NPO法人習志野ベイサイドスポーツクラブ(NBS)のスポーツまつりは、会員の親睦と地域の人に総合型地域スポーツクラブの活動を知ってもらうため、今年で16回目を迎えた。

開会式では香澄小学校音楽部が「パイレーツ・オブ・カリビアン」のテーマはかを楽しみ演奏。阿川幸平

OB、OG、歴代指導者が集合

第1回習志野市少年野球6年生卒部記念大会が2月24日、第一中学校グラウンドで開かれた。

卒部した6年生が他チームの選手と野球を楽しむながら、交流を深めてもらおうと「習志野市少年野球29年度習志野選抜オヤジの会」が主催した。

大会には13チームから83名が参加し、4チームにわかれて対戦した。選手たちがたくさんプレーできるように1試合に4イニング以上出場するなどのルールも決められ、普段見られない

少年野球の`オヤジ`集結 卒部記念に手づくりの大会



チームを越えて仲間を応援！

副実行委員長を務めた竹末京治さんは「和やかな雰囲気です試合ができ、人とのつながりのありがたさを感じた」。

理事長は「冬季オリンピック・パラリンピックでは日本人の活躍が見られ、スポーツの持つ力の大きさを感

じました。会員相互と地域の親睦によるコミュニケーションと仲間づくりに協力を願いたい」と挨拶した。サッカーのキックターゲット、バレーとテニスのパ